

テーマ「『深い学び』を目指した道徳教育の取組
～道徳の時間における単元化『ユニット』の試み～」

提 案 者 竹原市立忠海中学校
司 会 者 竹原市立吉名学園
記 録 者 竹原市立竹原中学校
指導助言者 広島県西部教育事務所

1 はじめに

本校は、旧忠海東小学校と旧忠海西小学校を統合し開校した忠海小学校と、その卒業生の進学先である忠海中学校とを合わせて、平成 27 年度に施設一体型小中一貫校となった。今年で 4 年目を迎える。平成 30 年度の在籍児童生徒数は、児童 140 名、生徒 75 名である。小中ともに各学年 1 クラス、特別支援学級 1 クラスの小規模校であるため、進級に伴うクラス替えはなく、学年を超えた児童生徒間の交流も盛んである。平成 28・29 年度には、文部科学省委託「『道徳教育改善・充実』総合対策事業」の指定を受け、道徳教育の研究を進めてきた。

また、地域唯一の小・中学校となったことで、地域の協力も得やすく、地域との結びつきを活かした学習活動を行いやすい環境にある。町内には、近年“うさぎの島”として観光客に人気の大久野島がある。黒滝山の中腹に建つ校舍から臨む瀬戸内海の風光明媚な眺めは、児童生徒だけでなく、教職員、卒業生、保護者や地域にとっても誇りである。

2 研究のねらい

<研究主題>
①アイデンティティを育て、②自己の可能性を伸ばす道徳教育の創造
～対話から、道徳的判断力の育成を目指した授業づくりを通して～

①「アイデンティティを育てる」

地域の中で育つ「自分のよさ」を見つけたり、地域の中で「なりたい自分」を見つけたりしようとする姿

地域とのつながり

対話を活かし、道徳的判断力の育成を目指した授業展開に、地域とのつながりを意識させる工夫をすることで、自分のよさを見つけ自信を持ったり、将来の夢や目標を持ったりできるだろう。

②自己の可能性を伸ばす

他の生き方から学ぶことで「自分の世界」や「自分のよさ」を広げていこうとする姿

仲間とのつながり

対話を活かし、道徳的判断力の育成を目指した授業をすることで、児童生徒が他者との対話に価値を見出し、より多くの仲間とつながろうとしたり、自分らしさを伸ばしていこうとしたりするだろう。

学校教育目標 夢や希望の実現に向けて、主体的に学び、行動する児童生徒の育成

3 研究の内容

(1) 地域とのつながりを意識させる工夫

①地域参加型授業



- 地域の方に、ゲストティーチャーとして参加していただいた。
- 忠海高校の生徒がゲストティーチャーの時は、身近な「人生の先輩」として、中学生の対話活動に参加していただいた。

②保護者参加型授業



- 参観日を利用し、保護者にも授業に参加していただいた。
- 保護者にもネームプレートやタブレットを準備することで、積極的に関わっていただくことができた。

③地域と関連させた授業



- 総合的な学習の時間や、学校行事等、地域と関わる学習活動と道徳の授業を関連させて実施することで、道徳的価値の深まりをねらった。
- 例) C国際理解, 国際貢献

(2) 仲間とのつながりを促進する工夫

①小中合同学校行事



- 小中合同の縦割り班を設定し活動することで、異年齢間の交流が促進されている。
- 例) 入学式
小中合同遠足
運動会

②学園対話集会



- 各学期のユニットに関連させて、小中合同の縦割り班で対話活動を行っている。
- ものの見方・考え方を広げ、テーマについて、より多面的・多角的に考えられるようにした。

③掲示方法の充実



- 児童生徒、教職員、保護者が、同じテーマについて考えた内容を共有スペースに掲示することで、多様な考え方に触れさせるとともに、学園としての一体感を持てるようにした。

(3) 対話を活かし、道徳的判断力の育成を目指した授業展開

①課題の設定



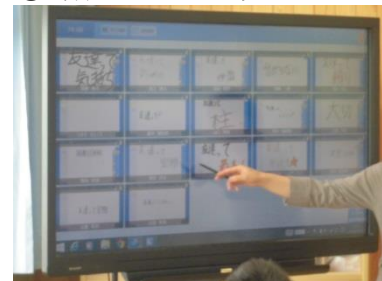
- 対話を方向付け、深めるために導入で設定した課題を振り返りながら、授業を展開する。
- 板書の中心に課題を提示することで、立ち返りやすくする。

②対話サイズの工夫



- 1回の授業で、対話する時間を何度か取ることで、対話を深めていく。その際、対話の人数を2～4名で流動的に指定することで、対話を活性化させる。

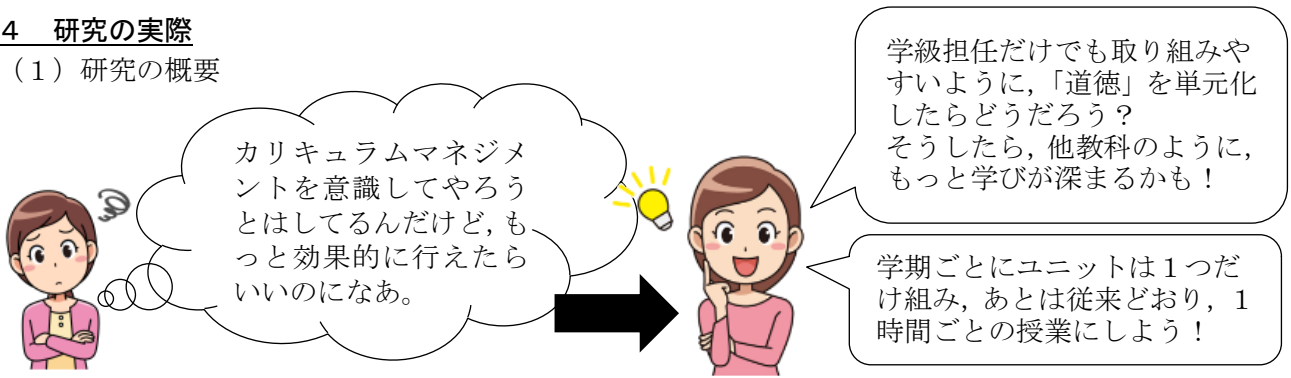
③対話ツールの工夫



- タブレットやホワイトボードを用いることで、対話の目的を明確にするとともに、多様な考えを視覚的に整理することで、対話の深まりを促す。

4 研究の実際

(1) 研究の概要



- 「道徳の時間」の単元化→『ユニット』
- 単元（ユニット）テーマに迫るために、複数教材を複数時間で取り扱う。
- 単元（ユニット）を「大きくりなまとまり」として設定する。
- 「ユニットノート」を作成し、毎時間コメントを返しながら生徒の変容を見取る。

(2) ユニットの実際

平成 29 年度	ユニットテーマ
1 学期	目標に挑戦する心
2 学期	いじめを許さない心
3 学期	命を大切にする心

平成 30 年度	ユニットテーマ
1 学期	挑戦して生きる
2 学期	人と生きる
3 学期	命の限り生きる

○ユニットテーマを小中で統一して実施

○ユニットテーマを小中別に設定

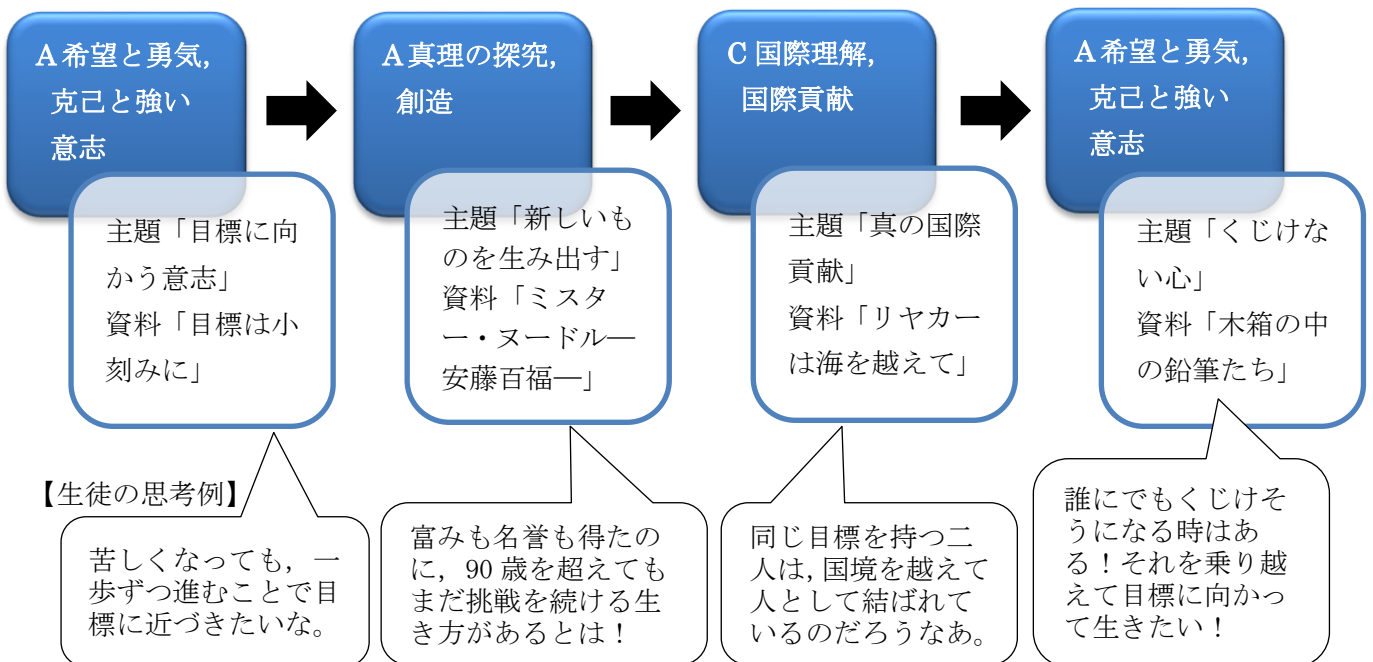
△学園全体での取り組みとして意識できるが、中学校では、『～する心』というユニットテーマの表現が、道徳的心情の育成を重視しているように感じられた。

◎『～生きる』というユニットテーマの表現が、生き方を語るという授業展開を意識させ、対話を通じた道徳的判断力の育成を重視することができる。

(3) ユニットの例

例) ユニットテーマ「挑戦して生きる」中学校第1学年

※資料はすべて『自分を見つめる』（あかつき）を使用



(4) ユニットノート

- ・毎時間のふり返り
- ・ユニット前の考え
- ・ユニット後のふり返り
- ・ユニット前後の意識調査
- ・ユニット前後の保護者コメント



5 成果と課題

(1) 成果

① ユニットを通じた学びの深まり

【ユニット「目標に挑戦する心」】

あなたの人生に、夢や目標は必要だと思いますか。それはなぜですか。

僕は、必要ではないと思います。そもそも希望の通りになることは「たいたいないし、音楽と同じように、必要ないけどあった方がいい」と感じています。サイドメニュー的を感じたいと思う。

思いどおりにならない夢や目標にあまり意味を感じていない。

自分を見つめ、夢や目標、自身の生き方について考えた記述が見られる。

このノートを読み返して、自分の夢や目標、生き方について考えたことを書こう。

このノートを返して、物語の人達はいつも希望を持って日々生きていたと思う。また、それでなくても、優しかったりした。

けれども、僕は夢もこれといったものをないかな。ドライだとも思うし、現実主義すぎたかもしれない。なのでもう少し、希望とかそういう明るいものを持って生活したいと思った。

いまからでは無理だけど、少しづつ変えていきたいと思う。

道徳は、そういうチャンスをつかえてくれた授業だと思った。

【ユニット「いじめを許さない心」】

僕は、いじめは人の心を傷つけるものだと思います。からかいやいたずらがひどくなると、いじめになると思います。すると、いじめられた人は心が傷つき、今後の生活がうまくできなくなるかもしれません。

いじめというのはからかい等がひどくなって起こるものだと思う。でも、加減を知らないといけない。少しぐらい、というのがひどくなってしまわないように「相手の気持ち」を考える必要がある。人の生き方は自由だが、自由だからといって人の心をつぶすいじめをするのはいけない。僕は、心が広い人になりたい。そうなれたら、自分でもすごいと思うし、「相手の気持ちを考える」というのが極められるのではないかと思った。そうして、自分でも満足できるような人間になりたいと思った。(抜粋)

② 授業の質の向上

質問項目 (中学校・全学年)	H28.4	H30.4
「道徳の時間」の勉強はためになる	81.3%	94.3%
「道徳の時間」では、友達と話し合うなどして、自分の考えを深めたり、広げたりしている	71.7%	91.8%
「道徳の時間」で勉強したことを、自分の生活にいかしている	58.7%	83.6%

③ 見取りの深まり

ユニットノートを使用することで、ひとつのテーマについて生徒の思考の変容が見取りやすくなり、生徒がいかに成長したかを積極的に認め、励ます個人内評価を記述式で行いやすくなった。

(2) 課題と今後に向けて

① 他教科等との関連の充実

道徳の時間を単元化することで、生徒の学びが深まる様子は見られたが、各領域との関連は十分意識させられていない。総合的な学習の時間や特別活動だけでなく、各教科の学習内容と道徳の時間を関連させていくことで、生徒の課題に対する問題意識を高めていきたい。

② 重点内容項目を充実させる取組

教科書の導入に伴い、本校の重点内容項目に関わる資料をどのように充実させていくことができるか、検討していく必要がある。

③ 生徒実態に即したユニットの設定

来年度以降、道徳科の特質を生かして、ユニットのテーマや内容、実施時期、時間数などを、生徒の実態に照らして柔軟に変化させていく工夫が必要である。